

動詞の活用 総復習

1 活用の種類と活用形は別

活用の種類は、動詞がどのような型で形を変えるか。「読む」は五段活用。「読まない」の「読ま」は未然形で、「読めば」の「読め」は仮定形。同じ動詞でも、文中の使われ方で活用形が変わる。

2 五つの活用の種類

五段活用：書か・書こ／書き・書い／書く／書く／書け／書け。

上一段活用：起き／起き／起きる／起きる／起きれ／起きろ・起きよ。

下一段活用：開け／開け／開ける／開ける／開けれ／開けろ・開けよ。

カ行変格活用：こ／き／くる／くる／くれ／こい。

サ行変格活用：し・せ・さ／し／する／する／すれ／しろ・せよ。

各行は未然・連用・終止・連体・仮定・命令の順。

3 後続く言葉が手がかかり

未然形：「ない・う・よう」など続く。

連用形：「ます・た・て」など続く。

終止形：言い切る。連体形：体言などに続く。

仮定形：「ば」に続く。命令形：命令して言い切る。

例：読む。→ 終止形／読む本 → 連体形。形が同じでも働きで区別する。

4 「ない」につなげて確かめる

切る → 切らない → ラ行五段活用

着る → 着ない → カ行上一段活用

一段活用でも、形が似ているからと決めつけない。「帰る」は帰らないなので五段活用。「見る」は見ないので上一段活用。行も問われたときは、活用する音の行を答える。

5 音便と可能動詞

動詞の連用形が「た・て」などに続くと、音が変わることがある。書いて：イ音便、待って：促音便、読んで：撥音便。変化した形も連用形。「行く」の「行って」は促音便。

五段動詞からできる可能動詞は下一段活用。「泳ぐ → 泳げる」「書く → 書ける」。

6 解答前に範囲を確認

「読まない」の動詞部分は「読ま」。助動詞「ない」まで含めない。活用形を書くのか、実際の語形を書くのか、指示を分けて確認する。「来る」は「来ない＝こない」「来ます＝きます」など、読みも変わる。